

西濃農林事務所の普及活動状況

平成 29 年 3 月 31 日現在

今月の重点活動

■土地利用型作物 **水田農業の担い手育成**

3月1日、営農集団等地域リーダー研修会（JAにしみの主催）が、JAにしみの本店で開催された。この研修会は管内の水田農業の担い手が集まり、情報共有と連携を進め、安定的かつ効率的な水田経営を実現することを目的に毎年行われている。

研修会には約400人が集まり、最初に「JAにしみの旨い米コンクール」の結果発表と表彰が行われた。ハツシモの最優秀賞は輪之内町カワシマ共同が受賞した。TACからは良食味米生産を目指す営農指導活動の事例報告等が行われた。

農業普及課からは平成28年の水田農業の課題と改善対策について情報提供した。また、東海農政局、県、JA岐阜中央会等、関係機関から平成30年以降の水田農業振興の考え方について説明がされた。



【普及課からの情報提供】

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー **ダンボール出荷検討会を開催**

ブロッコリーの出荷は、平成28年産から組み立て式回収コンテナからダンボール出荷に切り替わっているが、内袋に新聞紙と水を入れて保湿する鮮度保持を行っているため、水漏れによる荷崩れや流通中の花蕾黄化等の品質劣化が問題となっている。これらの問題解決と低コスト化を図るため、入数を15個1段詰めから20個2段詰めとし、内袋に鮮度保持袋を用いることにより品質劣化を防ぐよう、ダンボール規格を見直す検討会をJA・全農・農業普及課を参集範囲として開催した。

今後、生産者及び仲卸等実需者との意見交換を行いながら、変更を検討する。



【検討会の様子】

多様な担い手づくり

■指導農業士・青年農業士 **大垣養老高校での出前講座を実施**

2月23日に、指導農業士（神戸町）と青年農業士（海津市）が、大垣養老高校の環境園芸科2年生36人に講義を行った。それぞれの農業士が実践している農業経営及び農業技術について説明され、学生の農業に対する関心を高めるよい機会となった。

今回が初めての実施であったことから反省点もあり、次回実施時にはよりよい出前講座ができるようにしていきたい。

売れるブランドづくり

■そば 新たな特産品目の振興支援「関ヶ原町そば生産組合会議」の開催

2月27日に関ヶ原町役場において、特産品化を進めるそばの栽培計画にかかる会議を開催した。平成29年度において組合内4組織で合計9.02ha（昨年8.90ha）の作付を行うことや、品種は全面的に「常陸秋」に統一することなどが決定された。

また、農業普及課として技術支援を行った施肥改善による省力化実証試験の結果報告を行い、改善肥料費の増額分よりも増収による収益増や、直接支払交付金の単位当たり増額（14,700円（1等）/45kg）を勘案し、29年度も継続試験を実施することとした。農業普及課としては、施肥改善試験の継続支援を通じ、そばの増収増益に資する活動を展開していく。



【そば施肥改善試験の播種状況】

■なし ハウス梨の開花が始まる（大垣市）

大垣市曾根町で栽培されているハウス梨（15a）が、現在開花中である。豊水が3月5日から、幸水が3月11日から開花が始まった。受粉は梵天（受粉用器具）による人工授粉と、受粉用ミツバチを併せて導入している。1月末にハウスビニール張りが完了し、適時加温栽培を行っている。ハウス内の病害虫の発生状況については、現在のところ目立った発生は見られない状況である。

7月上旬のハウス幸水の出荷に向けて栽培管理等の支援を行っていく予定である。

一方、露地栽培の梨では、現在発芽が始まっている状況である。



【ハウスなしの開花状況】

■麦 全国麦作共励会中央表彰式

全国麦作共励会において、海津市の（有）平田パイロットが全国米麦改良協会長賞を受賞した。2月22日に開催された中央表彰式にて表彰を受け、その後の交流会で各地の生産者や関係者との情報交換を行った。



【表彰式の様子】

■地産地消 ファーマーズマーケット出荷者への安全・安心講習会（安八地域）

3月13日に、安八地域におけるファーマーズマーケット生産者友の会会員を対象とした農薬の安全使用に関する講習会が開催された。

農業普及課からは、農薬の安全使用および連作障害対策について説明を行った。生産者は、土づくりに対して興味を持ち、活発な意見交流がなされた講習会であった。



【講習会の様子】